

冬雨夏

印 信 西



尾張梅樹軒逸人



尾張梅樹軒

梅樹軒の梅雨の
つらきもの下宿の
其はさふ公のしる
つらきもの下宿の
少ゆいんちのしる
ふらきもの下宿の

0471

あはむらまのし
二部の後らるる

まゝにしる



梅樹先生より天地間乃印癖あり余も
印癖あり家のよのハ其印れ大小と流し
せぬものハ一也めはと謂ふを 先生と
字内乃印とあはむ人々 顯教派
測り忌守余是と云ふ者ハ印山ニ唱ふ
又むくあはむや 藝士きけりいふ者
帯下ノ道達も印とハ人々あはむ

長酒よつきれくもくとおゆひ
文々樓固乃あの新くくおと白
字ハ庭前の積雪よけりきき花
のつひと婢研とみりり先生ま
能語よ新くく其聲もやくも世界
を風塵もこれとたふふ銀乃
眺とりり九天も博くくくく
細友少母上人そくくひまうて我乃

實の愛もる海印成語と熟着一是
句と作りのんといふ先生もくく
くくく好本者ありて徑可
三十六題と出くく志めまおのく高
の雕鑿とえくく余くくのせくく
あり上人そあり一巻の歌仙と伝家
あくくのくくくくくくく心
満中るいあひくくく印山中小

兼事と云推者乃列小法と云書乃
 との如く一筆と印法乃
 法より小し留行一也ん法と云書乃

三陽
 且齋識

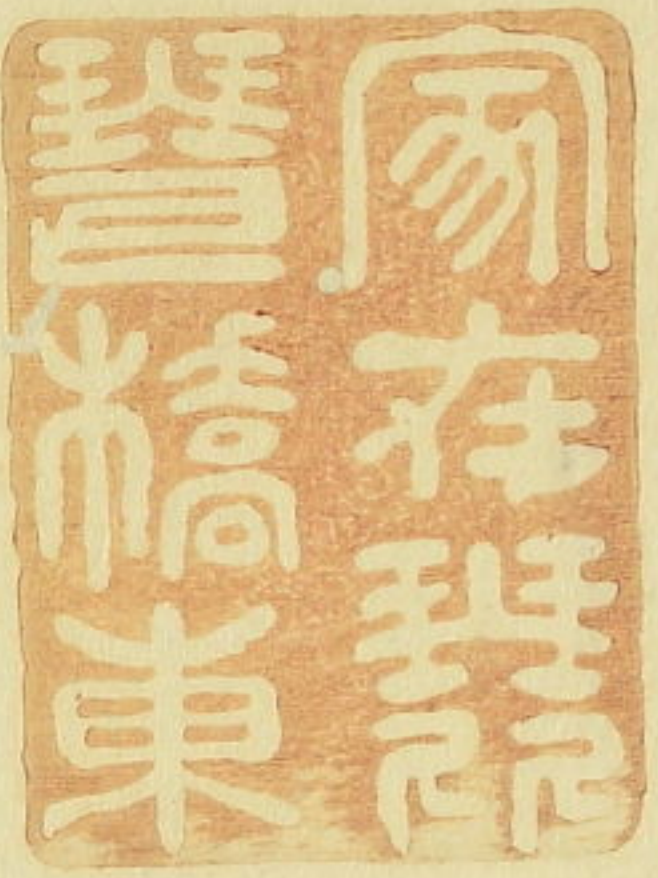


乾坤
 印癖

乾坤乃印癖

逸人

癖に
 け
 け
 け
 け



家在琵琶橋東

橋東の

少女

風とまの夏

泰平幸民

清きよし

快臺

民々延古

あ〜こめ〜



雲中白雀

あ〜と〜あ〜

笑ひこちり

日向
真彦

聽松間人

独居〜きかん

竹有

木の間の月の聲



知足

家世の秋磨

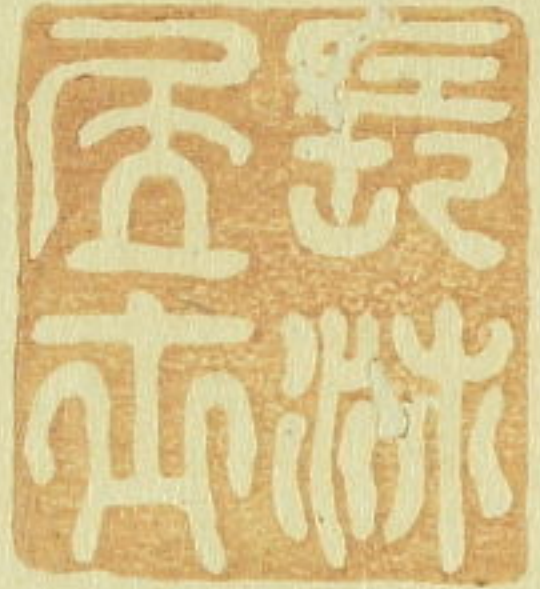
是家子と

家

思永堂書記

思永堂書記

昆明



長流居士

そのと 流す

ちきり 亦長

いぬ

夙也

浮世如夢

涼 嗟鹿

岩根 去る根

羨望





女顏如玉

夜光の玉

舎童

かゝる物も人

不言不笑不取

不言くく居乃 水あふ

庚申

世實



戈典不戈之間

厚と存との間乃 藪の陰 里女



芙蓉樓

糸止る

芙蓉楼 きこ 少年

小石

陸四郎

蘆灣

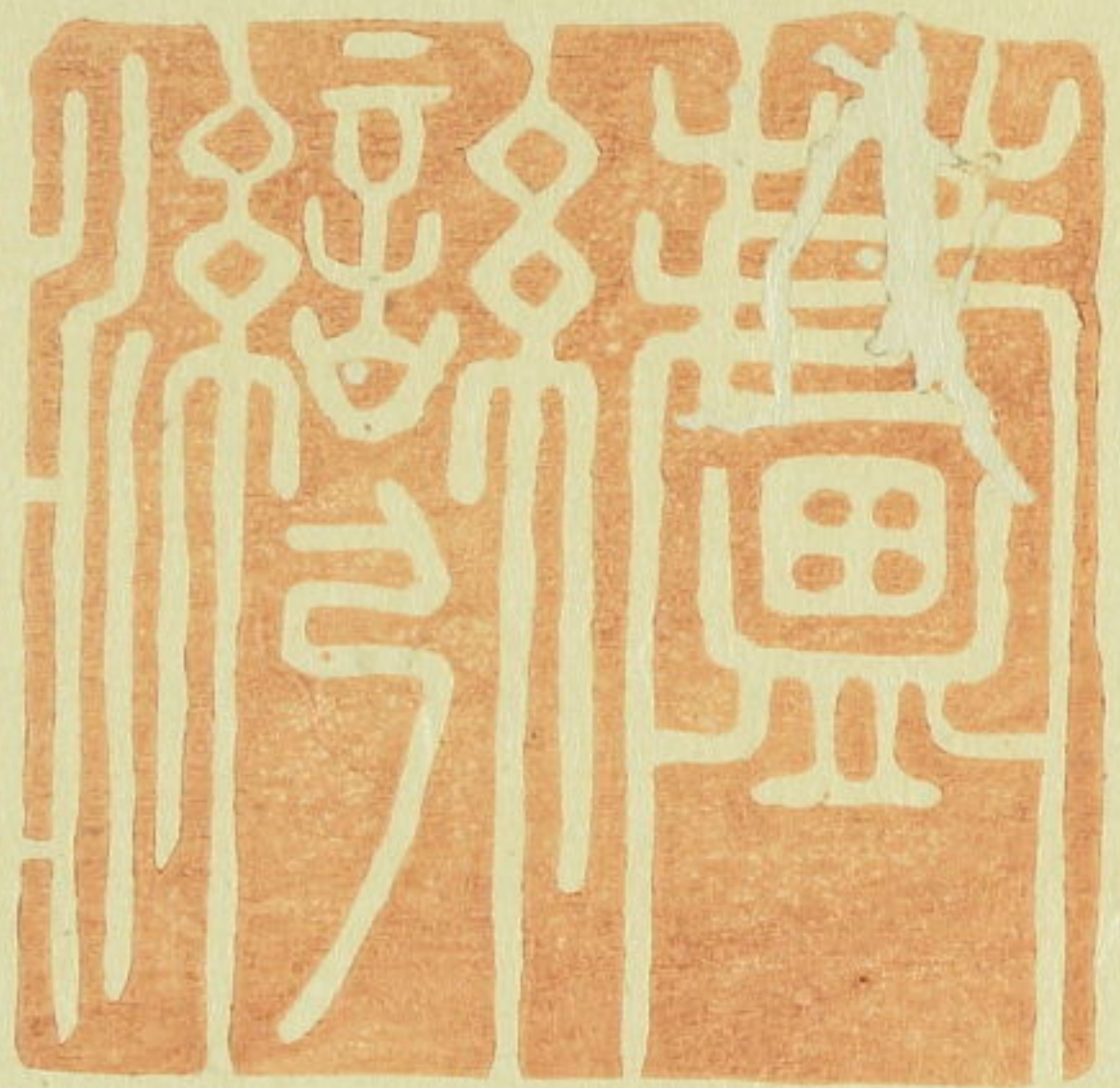
奥糸

産可

少年 乙五郎

あ の

糸糸





芳花園櫻叟

少女

はるる

ふか

白く

ふい

あ

叟



亦可

すくしゆせめ

吞舟

去の竈よりくむつ

人生一樂

是人生の一乃樂

逸人





梅樹

樹
可
遠
也

み
好
む
矣
快
臺

醫師

醫
之
也

可
也

真
彦

農
の

浦
也



常在塵埃之外

ち
埃
竹
有

喜
山
と
人
家

我句遍吉

家
白
と
一
瓢

叶
次
も
蟬
よ

海
底
一



白龍

龍

消ん

昆明

西ふき窓

都慎願身收思永



欄干に願きぬの
身と倚きぬの
夙也



氷鑑照人

氷の上

さう家人聲

崦鹿

鷗聲亭

神家く

鷗と抱え

舎童

海りり



一貫舎

身と芳く之并るの鐘也實

叩两端



柳端と

簾の裾

里女

叩くし

讀書養性

心養ふこと

乙丑節

書好し



醉月菴逸人

誰やう存す

酸里とくさひ

れ

陸四郎

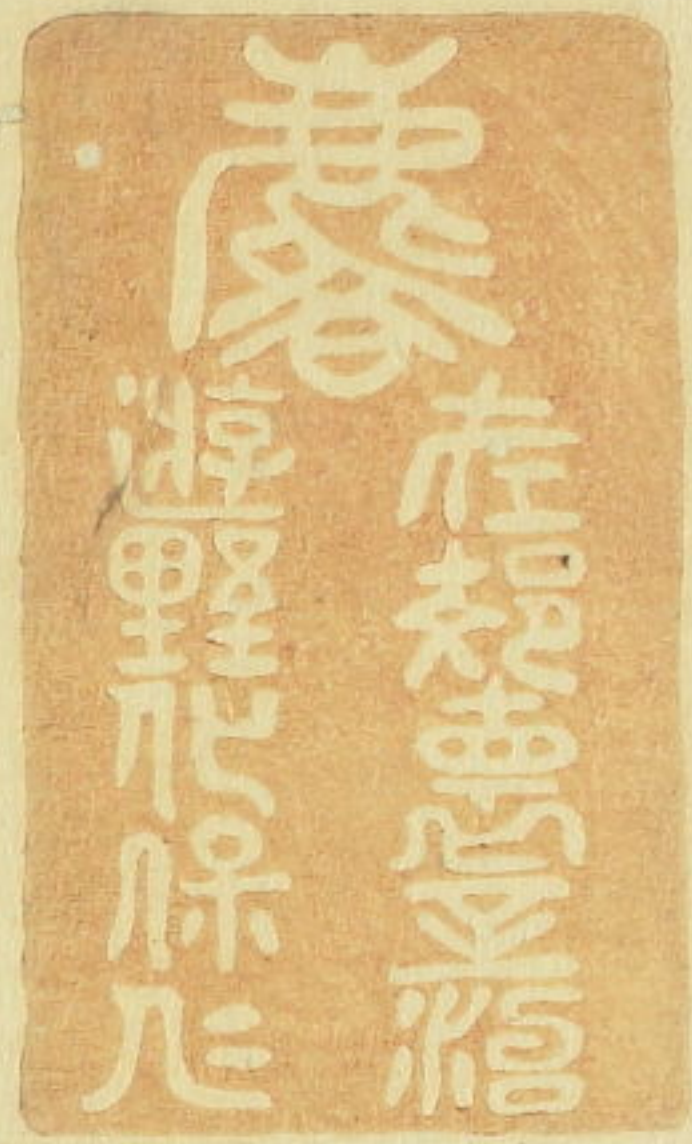
鳴鹿

京々んんん鹿を

鳴かすも

吞舟





麟
遊左郊懷至治
化保仁

野不

逸人

化

雲林泉石

きよ年 孫 少汝

石に漏く



寸心千里

乃 汝心千里

快臺

来 心味

夫天地者萬物逆旅

真彦

天地以方

きりぬさ



黃鳥一聲酒一盃

常のちきに

竹有

おととふ

むの酒



作德

嶽乃急之の徳つるこ筆



加藤肅敬予一字退夫號思永堂
 學子癖梅樹軒櫻叟北石齋白龍
 一貫舎顔厚了笑芙蓉樓隣坡
 鷗聲亭蘆灣芳華園長流
 醉月菴聽松逸人幼好和漢之學
 與世俗貪慾之人不同交也雖然有好
 俳諧之癖而時會于梅樹小軒脩禊
 事也群賢畢至少長咸集或日會席

少汝上人曰以予印三十六顆欲為歌仙
一卷如何余以不足世人之觀臨見辭焉
上人強而不聽座客亦不許余須更則
許諾故名曰印譜畧為之跋云

文化十年癸酉九月日

加藤南敬子識



